

第 69 回町村議会議長全国大会  
額賀福志郎 衆議院議長祝辞

本日、第六十九回町村議会議長全国大会が開催されるに当たり、一言お祝いの言葉を申し上げます。

私の地元は、現在の茨城県「行方市」です。生まれた当時は「行方郡小高村」でした。昭和三十年の市町村合併により「麻生町」となり、その後、行方市となっていったのです。私の心の中では、ふるさとは「小高村」であり、「麻生町」であります。その意味では、町村議会の重要性は常に実感しております。日頃より地域住民の方々と直接向き合いながら、議会の円滑な運営と地方自治の発展に貢献されている皆様に、心から敬意を表し、感謝の気持ちを持っております。

現在、町村議会では、農業など他の職業を兼ねながら議員活動をされている方が、全体の四分の三を占めております。また、立候補者数の減少が進み、無投票・定員割れの町村が全体の約三割となるなど、町村議会議員の担い手の確保は喫緊の課題となっています。

こうした中、皆様を含む県、市、町村の三議長会では、若者に人気の漫画を用いた議会紹介リーフレットを作成し、将来有権者となる子どもたちへの主権者教育を通じて、町村議会の魅力の発信に努めていると聞いております。また、宮城県蔵王町では、これまで議会選挙で女性の立候補者が皆無であったため、令和五年に女性模擬町議会を開き、女性の政治参加を呼びかけました。その結果、この女性模擬町議会の参加者七名のうち三名が昨年の町議選に立候補し、全員が当選されました。厳しい状況の中でも創意工夫を重ね、地域の未来を見据えて活動されていることは、誠に意義深いことであると思います。

町村議会は、地域の多様な民意を集約し、行政に生かしていく大きな役割を担っており、今後とも民主主義・地方自治に欠くことのできない存在であります。衆議院といたしましては、引き続き関係委員会を中心に活力あふれる地域社会の実現に向けて議論を重ね、皆様の取組を力強く後押ししてまいります。町村議会議長の皆様におかれましては、地域の意思決定と行政監視の要として、町村の発展のために一層の御活躍を期待いたします。

結びに、本大会の御成功と皆様方の御健勝をお祈りし、私のお祝いの言葉といたします。

令和7年11月12日

衆議院議長 額賀 福志郎